様式1　　平成22年度　学校評価報告書　　学校名　桑名高校衛生看護分校

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
授業の充実	国家試験に対応した授業の充実。 生徒対象授業アンケート実施 医師等専門講師の講師による授業充実 臨地実習の効果的な運用	授業アンケートは前期後期で各授業で実施。集計は各教員で行い授業改善に資するとした。国家試験については38名の受検。発表は3/25。 医師等の専門家講師は33名を任用。最前線にいる専門家の授業は生徒たちの評価も概して高い。	生徒による授業アンケートを導入できたことはよかった。今後はその結果をいかに授業の改善に反映していけるシステムを構築するかが課題。 医師講師による授業は今後も継続・更なる発展ができるように、その確保のため病院等関係機関との連携をすすめていく必要がある。 臨地実習については今後も安定して充実した実習をすべく実習施設との連携を深める。
職業教育・進路指導の充実	職業観・勤労観の育成。外部講師・卒業生を招いてキャリア教育の実施 看護師国家試験対策の強化。課外特別講義等の実施 看護師国家試験全員合格	卒業生と語る会　2回 外部講師による講演　本科・専攻科各1回 産振の作文部門入選1　研究発表入選1 国家試験対策課外授業　実施(7月以降) 同上　特別講義　実施(2月) ＊国家試験結果は3/25発表	卒業後はすぐに医療の現場へ就く生徒たちであり、卒業生と語る会で直接の先輩方から実際の医療現場等での体験やアドバイスが聞ける語る会は非常に貴重な機会なので、本校移転後もしっかりと続けていきたい。 本校にとって、看護師国家試験合格は進路に直結した大命題である。課外授業や外部講師を招いての特別講義なども更に充実させ今後も万全の対策をとっていく。
全人教育の推進 生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立とマナー向上。職員の指導に対する意思統一 登下校指導の毎月実施 授業に集中する環境作り	登下校指導は生徒指導部中心に全職員担当を割り当てて年間10回実施。 教室環境整備については職員でも意思統一を図りながら生徒への啓発を続けたが、十分には効果が上がらず、職員の環境作り実践の満足度は36%にとどまった。	本校はめざす学校像の中に、「確かな看護技術を持つ人間性豊かな看護師養成」をうたっており、生徒の倫理観や規範意識を高めることが強く求められる。そのために、職員の意思統一を一層すすめながら生徒への指導を強めていくことが必要である。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	・ 県内唯一の衛生看護科。優れた看護技術と豊かな人間性を持つ看護師を養成するという全校的目的があり、また看護師国家試験全員合格というその目的実現のための明確な指標もあるため、教育の方向性を定めやすい。 ・ 看護科職員は人事異動も少なく、学校のことを熟知しており、長期的視野で経営計画を立てやすい。 ・ 共通の目的を持つ生徒と５年間一貫教育での生徒教員の絆の強さ。
弱み	・ 県内一校の衛生看護科ということで生徒・職員とも他校含め外部との交流が少なく、気づきの場が少なく安定はしているものの、変化させる風土が希薄になりがち。 ・ 職場が小さく、小回りがきく反面、行事等についてもきちんとした企画等が直前まで示されないことがある。もう少し計画性が必要。 ・ 看護科という教科の特殊性もあり、研修機会が少ない。

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次　年　度　に　向　け　た　取　組
本年度で衛生看護分校を閉じ、桑名高校本校へ移転ということで、この１年間、移転へ向けての準備に加え様々な調整を行ってきた。次年度は本校という大きな組織の中へ入っていくあたり、いかにしてスムーズに教育活動を実践するかということはもとより、衛生看護科としてのアイデンティティを確立していくかが大命題となる。特に専攻科の在り方について本校の職員も含めて再確認しつつ、生活面も含めてその指導方法も今一度協議し意思統一を図ってくことも求められる。 また、県内唯一の看護師養成機関としての高等学校として、看護科職員の研修機会を開発してスキルアップを図りつつそれによる授業の改善を実現すると共に、近隣県の看護高等学校との連携についてもさらに充実させる方策を検討したい。